

科目ナンバリング		G-AAA03 53113 LB31									
授業科目名 <英訳>		持続型生存基盤研究の方法 An Interdisciplinary Approach to Sustainable Humanosphere				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 河野 泰之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
主として英文のレビューペーパーを題材として、農学や生態学、情報学などの自然科学をベースとして持続型生存基盤研究にアプローチする場合に有用な基礎知識と基本概念の理解を目指す。											
【到達目標】											
持続型生存基盤研究に関わる理論を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。ただし学習の理解度に応じて、変更される場合がある。また受講生のニーズに応じて英語での講義とする場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．水循環と水資源の利用・管理 2．土地利用変化のメカニズム 3．複雑性と生態系管理 4．生態系のレジーム・シフト 5．適応的管理（Adaptive Management） 6．人と社会のモデリング 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席状況と授業中の討論に対する姿勢により評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する 適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
適宜、指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は、（kono@cseas.kyoto-u.ac.jp）までメールすること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83115 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域研究・文理融合論 Non-Modern Approaches in Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 藤田 幸一			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本講義のねらいは2点ある。講義の前半では、言うは易く行うは難いのが常である文理融合研究を取り上げる。具体的事例として、1つはインド・バングラデシュの地下水灌漑とエネルギー、食料生産のネクサス分析、もう1つはタイ、ミャンマー、インドの天然ゴム産業における生産、加工、流通の全過程についての、技術的、制度的、社会経済学的総合分析を取り上げる。講義の後半では、フィールドワークの過程で必要となってくる農産物の生産費・所得分析を取り上げ、さらにはそれを含む農村世帯調査法を習得する。生産費分析はそれ自体、非常に難しい理論的課題を含んでいるが、それだけに、それが真に理解できたなら、その背後に隠れている技術、制度、社会経済の間の複雑な相互関連性が理解できたことになる。本講義では、アジア各地での具体的な世帯調査法の比較検討を通じて、東アジア、東南アジア、南アジアの地域性の一端が自然に理解できるよう、配慮する。</p>											
【到達目標】											
<p>文理融合研究のキーワードは生態環境、技術、経済、社会、制度、政策等であり、それらの要素のディシプリンに基づく深い分析の上に、それらを統一的視点から統合することが不可欠で、実際のところ、一朝一夕に体得できるものではない。複数のディシプリンに基づく鋭い分析と、それとは異質な総合的理解が、両方、必要となってくるからだ。本講義は、具体的事例を通じて、どのような分析とその統合が必要かを学ぶ場を提供する。また地域研究では、以上のような文理融合研究を通じて到達した地域像を比較検討し、地域の個性の把握手法を学ぶ。複数の地域の個性の違いを把握することが、地域個性把握の1つの重要な方法であることを学ぶ。農産物生産費論と農村調査法の習得は、そのための1つの道具である。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．はじめに：講義のねらいと予定 2．インド・バングラデシュの生態環境と農業：ヒンドスタン平原に焦点を当てて 3．インド・バングラデシュの地下水灌漑の拡大と灌漑水の市場取引 4．インド・バングラデシュの電力政策と地下水灌漑、食料生産 5．インド・マハーラーシュトラ州の流域管理プロジェクトと部族民社会 6．天然ゴム産業：生態環境、技術とその歴史 7．天然ゴム産業振興のための制度と政策 8．タイの天然ゴム産業 9．ミャンマー、インドの天然ゴム産業 10．農村調査法 11．農村調査法 12．農産物生産費論：投入財（畜力、農業機械を含む） 13．農産物生産費論：土地、労働、金融 14．農村世帯調査実習 15．農村世帯調査実習 											
----- 地域研究・文理融合論 (2)へ続く -----											

地域研究・文理融合論 (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の合間に行う小テスト、講義（討論）への参加具合などを総合して評点する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

特になし。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：随時（ただし、アポ必要）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83116 LE31									
授業科目名 <英訳>		持続型生存基盤と環境 Sustainable Humanosphere and Environment				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 D'SOUZA, Rohan Ignatious			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
Debating Future-Natures: a study of essays on Climate Change, Global Warming and Anthropocene Politics. This course will discuss some of the main essays and writings that have set the tone and context for our understanding of Climate Change, Global Warming and Anthropocene politics as linked worlds involving science, politics and meanings.											
【到達目標】											
TBA											
【授業計画と内容】											
Main Readings: 1) Libby Robin, Sverker Sorlin and Paul Warde (ed.), The Future of Nature, Yale University Press, 2013. 2) Bill McKibben (ed.), The Global Warming Reader, OR Books, 2011.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
TBA											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
TBA											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83117 SJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア比較政治論 Comparative Asian Politics				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 中溝 和弥			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>比較政治学の基礎を、南アジアを中心とするアジア諸国の事例を通じて学ぶことを目的とする。扱うテーマは、比較政治学の方法論、ナショナリズム論、政治体制論、民主主義論、市民社会論、政党政治論などの比較政治理論に加え、これらを応用する形で南アジア、特にインド政治について学習する。</p> <p>授業はゼミ形式で行い、受講生が課題文献を正確に読解し、これに基づいて自らの研究課題に応用していくことを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>本演習を履修することにより、主に次の二つを習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 比較政治における基本的な方法論と分析枠組み 2. 南アジア政治、とりわけインド政治に関する基本的な知識 											
【授業計画と内容】											
<p>演習において扱う主なテーマは、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 比較政治学の方法論（2回） 2. 国民国家の形成：ナショナリズム論 3. 政治体制論 4. 民主主義論（2回） 5. 民主化の理論 6. 市民社会論 7. 【インド】政党システムの展開 8. 【インド】アイデンティティの政治 9. 【インド】宗教暴動（2回） 10. 【インド】国民統合 11. 各自の研究発表（2回） <p>履修者は各回の課題文献を必ず読んで授業に臨むこと。なお、扱うテーマについては、履修生の関心に従って変更する可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アジア比較政治論(2)へ続く -----											

アジア比較政治論(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（70点）+ 期末レポート（30点）の組み合わせとする。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

課題文献は、自分の担当回のみならず、必ず講読して臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーの時間は特に定めません。面接希望者は、随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53118 LJ31									
授業科目名 <英訳>		中東の平和と戦争 Peace and War in the Middle East				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域 研究研究科研究員 佐藤 麻理絵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>20～21世紀の中東・北アフリカ地域における平和と戦争、紛争や紛争解決、和平プロセス等について、理論的な考察を加えるとともに、主要な事例について学びます。</p> <p>また、歴史的背景として、イスラーム史における「ジハード」についても学びます。</p> <p>難民問題については、今日の国際社会における「難民」の起源が中東にあること、また、現在多くの難民が中東で生まれていることなどを考慮して、一つの大きな焦点とします。</p>											
【到達目標】											
<p>中東地域研究の専門家として、現代の中東・北アフリカの平和と戦争について、歴史と現代を総合する地域認識を獲得し、主要な事例について基本知識を学び、また新たに遭遇した事例についても自ら考察できるような視座を身につけることを目標とします。</p> <p>イスラーム世界の国際語としてのアラビア語を用いて、専門用語も学びます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義を中心として、一部でゼミ方式で発表と討議をおこないます（組み合わせ方は、出席者の人数によって調整します）。</p> <p>講義では、以下について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム国家の成立とジハード ・イスラーム国際法（スィヤル） ・近代的な国際システムと地域紛争 ・両世界大戦後の「平和」に埋め込まれた紛争 ・中東戦争：第1～4次 ・中東和平プロセス ・レバノン内戦とレバノン戦争 ・イラン・イラク戦争 ・湾岸戦争とイラク戦争 ・武装闘争・テロと低強度紛争 ・「難民」の生成と変容 ・国連と難民 ・現代の難民問題と救援・支援の実態 <p>ゼミ発表および期末課題は、各自の研究テーマに合わせた「知的インフラ構築」の課題（主題年表の制作など）に主体的に取り組んでいただきます。</p>											
【履修要件】											
<p>国際関係学、中東政治について既修でない場合は、同じ後期に提供されている「現代中東・北アフリカ地域論」を並行して履修することが望ましいです（必須ではありません）。</p>											
----- 中東の平和と戦争 (2)へ続く -----											

中東の平和と戦争 (2)

アラビア語初級（前期）を履修済みか、それ以上のアラビア語能力を有すること。

【成績評価の方法・観点】

通常点および課題評価

【教科書】

小杉 泰 『9・11以後のイスラーム政治』（岩波書店）

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

他の参考文献・資料は、必要に応じて、授業中に紹介または配布します。

（関連URL）

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/>((イスラーム地域研究センター))

【授業外学修（予習・復習）等】

中東は現在でも紛争頻発地域であり、戦争や内乱も多発しています。また、この地域を理解するためには、歴史も十分に踏まえないといけません。学ぶ事例が多いので、しっかりと資料を読み、予習・復習をしてください。

（その他（オフィスアワー等））

「熱情」をもって履修してください。熱気あふれるクラスで、先端的な知見を身につけましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83119 SJ31									
授業科目名 <英訳>		平和共生論の基礎 Theory of Peace and Coexistence				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 中溝 和弥			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本演習においては、平和共生論の基礎を学ぶことを目的とする。国際政治学、政治学のディシプリンを中心に学びながら、南アジア諸国、とりわけインドを事例として検証する。											
【到達目標】											
平和共生論の理論的な分析枠組みを習得する。その上で、これらの分析枠組みを自らが専門とする地域に適用し、平和共生を実現するための条件を考察する。											
【授業計画と内容】											
本演習で扱うテーマは、次の通りである。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 紛争の形態（2回） 2. 国家形成 3. 近代国際政治の体系 4. 勢力均衡 5. 帝国と覇権 6. 国際政治の民主化 7. 相互依存論 8. 冷戦と「新しい戦争」 9. 破綻国家 10. 暴力的紛争 11. 日常型の抵抗 12. 宗教紛争（2回） 13. 平和共生の制度化 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点評価（課題、授業への参加状況、授業における発言等）：70% 2. 期末レポート：30% <p>の構成とする。</p>											
----- 平和共生論の基礎(2)へ続く -----											

平和共生論の基礎(2)

[教科書]

藤原帰一 『『国際政治』』 (放送大学教育振興会) ISBN:978-4-13504-0 (国際政治に関するテーマは、本書の議論に基づいて学習します。)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

そのほかの参考文献については、授業中に指示します。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読文献については、自分の担当回だけでなく、必ず予習するようにしてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーの時間は、特に定めません。面接希望者は、随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83203 LJ31									
授業科目名 <英訳>		スーフィズム・タリーカ論 Sufism and Tariqa Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 IDIRIS DANISMAZ			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。 講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。											
これまで本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。											
【用語集】											
クシャイリー「スーフィー派の言表(#701ib#257r#257t)とその意味の書」(2010)											
カーシャーニー『スーフィー用語集』(2011)											
【伝記】											
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」(2010)											
タシュキョプリユザーデ(ターシュクブリーザーダ)『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』(2015)											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』(2017): マグリブの聖者伝											
イブン・アラビー『聖霊』(2018): アンダルスの聖者伝											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』(2017): マグリブの聖者伝											
【地理書】											
ナブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』(2011)											
【理論書】											
ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』(2012): 修行論											
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』(2013): 古典マニュアルの集大成											
アブー・ナジーブ・スフラウルディー『修行者たちの作法』(2013): 修行論											
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』(2015): 完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
ムハンマド・イブン・アリー・サヌーシー『40のタリーカ(道統)を支える泉』(2016): 修行論											
アフマド・ザルーク『タサウウフの基礎』(2017): 理論書											
ナブルスィー『開示と明証』(2018): 完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
ジャズーリー『信条』(2018): 神学書(マグリビー体の練習を兼ねて)											
【詩】											
----- スーフィズム・タリーカ論 (2)へ続く -----											

スーフィズム・タリーカ論 (2)

イブン・アラビー 『欲望の解釈者』 (2016) : 神秘主義詩

また、昨年度から「イスラーム諸学シリーズ」も始めている。
1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

【履修要件】

初級アラビア語文法を習得していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点によって評価する。

【教科書】

使用しない
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

【参考書等】

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』 (名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』 (創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な写真が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』 (山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』 (世界思想社) ((I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。))
その他、教室で指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。複数の辞書にあたるほか、地名事典・人名事典・用語集等も必要に応じて活用する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくる。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83204 LJ31									
授業科目名 <英訳>		スーフィズム・タリーカ論 Sufism and Tariqa Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 IDIRIS DANISMAZ			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。 講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。											
これまで本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。											
【用語集】											
クシャイリー「スーフィー派の言表(#701ib#257r#257t)とその意味の書」(2010)											
カーシャーニー『スーフィー用語集』(2011)											
【伝記】											
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」(2010)											
タシュキョプリユザーデ(ターシュクブリーザーダ)『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』(2015)											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』(2017): マグリブの聖者伝											
イブン・アラビー『聖霊』(2018): アンダルスの聖者伝											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』(2017): マグリブの聖者伝											
【地理書】											
ナブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』(2011)											
【理論書】											
ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』(2012): 修行論											
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』(2013): 古典マニュアルの集大成											
アブー・ナジーブ・スフラウルディー『修行者たちの作法』(2013): 修行論											
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』(2015): 完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
ムハンマド・イブン・アリー・サヌーシー『40のタリーカ(道統)を支える泉』(2016): 修行論											
アフマド・ザルーク『タサウウフの基礎』(2017): 理論書											
ナブルスィー『開示と明証』(2018): 完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
ジャズーリー『信条』(2018): 神学書(マグリビー体の練習を兼ねて)											
【詩】											
----- スーフィズム・タリーカ論 (2)へ続く -----											

スーフィズム・タリーカ論 (2)

イブン・アラビー 『欲望の解釈者』 (2016) : 神秘主義詩

また、昨年度から「イスラーム諸学シリーズ」も始めている。
1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

【履修要件】

初級アラビア語を習得していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点によって評価する。

【教科書】

使用しない
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

【参考書等】

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』 (名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』 (創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』 (山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』 (世界思想社) (I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)
その他、教室で指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。複数の辞書にあたるほか、地名事典・人名事典・用語集等も必要に応じて活用する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくる。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53206 LJ31									
授業科目名 <英訳>		中東地域研究論 Middle Eastern Studies				担当者所属・ 職名・氏名		日本女子大学文学部 教授 白杵 陽			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
中東地域研究の基本的視座と方法論を学び、フィールドワークに必要な知見を養う。特に、中東地域の国際関係、民族・エスニック関係、宗教・宗派、国家論などの諸テーマを取りあげつつ、具体的な中東イメージを検討していく。（なお、この講義はグローバル地域研究専攻イスラーム世界論講座の授業である。）											
【到達目標】											
中東地域の政治・社会・文化・歴史とその現状と課題を自ら見出し、そのような課題を体現する具体的な事例研究を通して内在的に理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
中東地域研究に関する代表的な研究を購読し、演習形式で受講者各自に報告してもらい、報告後、質疑応答を行なう。とりわけ、中東地域研究の方法に関する基本的かつ標準的なテキストを使用することで、中東地域研究の多様性とその応用性に関する理解を深めたい。 また、受講者の専門領域に即した既存の研究についても演習において輪読する場合もある。 さらに、DVD・ビデオなどの映像資料をも適宜利用することで、視覚的イメージをも共有することにしたい。											
【履修要件】											
中東諸語（アラビア語、トルコ語、ペルシア語等）の初歩を学んでいることが望ましいが、必ずしも必須要件ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
演習における報告の内容および議論への参加姿勢を基準に成績を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
輪読に指定した文献は必ず予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 53207 LJ31									
授業科目名 <英訳>		中央アジア地域研究論 Central Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>旧ソ連中央アジア（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズ、タジキスタン、トルクメニスタン）はユーラシア大陸の中心部に位置し、ペルシア語／テュルク語とイスラームを歴史的な文化基盤としながらも、ロシア・ソ連文化の波を受け、社会主義とそのもとでの近代化を経験した興味深い地域である。</p> <p>この地域の現在を理解するための基本的視座を提供することを目的として、その近現代史を振り返る。</p>											
【到達目標】											
旧ソ連中央アジアの重層的な文化基層を理解し、ソ連解体以降生じた変容と新たな研究領域について概要を説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマを設定し、それぞれについて1～2回授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．地域概念としての中央アジア、中央アジアへの視点 2．帝政ロシアの中央アジア征服とその統治 3．中央アジアとロシア革命 4．ソ連体制下の近代化 5．ペレストロイカと中央アジア、そしてソ連からの独立へ 6．独立後のナショナリズムの諸相 7．中央アジアのイスラーム <p>後半部では、受講者の関心に合わせて、中央アジア関連の研究書の講読や研究発表を行う可能性も検討する。</p>											
【履修要件】											
中央アジア地域に関心があること、または中央アジアと比較対照しうる共通項のある地域に関心があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点および期末のレポート。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書） 小松久男他編 『中央ユーラシアを知る事典』（平凡社）（中央ユーラシアに関する読む事典）</p>											
----- 中央アジア地域研究論(2)へ続く -----											

中央アジア地域研究論(2)

宇山智彦編 『中央アジアを知るための60章』(明石書店)(中央アジア地域研究の入門書)
小松久男編 『中央ユーラシア史』(山川出版社)
帯谷知可他編 『朝倉世界地理講座 人間と大地の物語 5 中央アジア』(朝倉書店)(日本の中央ユーラシア地域研究の近年の成果)
岩崎一郎他編 『現代中央アジア論』(日本評論社)(絶版)
宇山智彦・岩崎一郎編 『現代中央アジア 政治・経済・社会』(日本評論社) ISBN:978-4-535-55826-7 (ソ連解体後の政治・経済・社会研究の基本的視座を示す最新版)
帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門編)
その他、適宜授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に参考文献等としてここにあげた文献、ならびに授業時に配布する参考文献リストにあげてある文献をできるだけ多く読むようにすること。

(その他(オフィスアワー等))

連絡はこちらへ obiya@cseas.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83215 LJ31									
授業科目名 <英訳>		オスマン朝スーフィズム論ⅠⅡ The Study of Ottoman Sufism II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 IDIRIS DANISMAZ			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
オスマン朝のイスラーム思想はその重要性にもかかわらず、いまだ十分に研究されているとは言えない。本講義は、そのなかでも重要なスーフィズムに焦点を合わせる。オスマン朝の思想書は、アラビア語、ペルシア語、オスマン・トルコ語で書かれるが、本講義ではこの内、オスマン・トルコ語のスーフィズム文献に焦点を合わせ、講読を行う。											
【到達目標】											
オスマン・トルコ語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
オスマン・トルコ語で書かれたスーフィズム文献の講読を行う。また、必要に応じて、オスマン朝のスーフィズムやイスラーム思想についての講義を行う。											
【履修要件】											
現代トルコ語を習得済みで、かつアラビア語・ペルシア語の少なくともひとつを習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点によって評価する。											
【教科書】											
テキストはこちらで用意する。今のところ、アブドゥッラー・ボスネヴィーの『叡智の台座注釈』（オスマン・トルコ語版）を使用する予定。											
【参考書等】											
（参考書） 東長靖編 『オスマン朝思想文化研究』（イスラーム地域研究センター）ISBN:非売品（オスマン朝の思想・文化のいくつかのジャンルについての解題と原典・翻訳）											
【授業外学修（予習・復習）等】											
講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 53217 LJ31											
授業科目名 <英訳>		アジア・アフリカ・スーフィズム論 Asian and African Sufi Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 人文科学研究所 准教授 中西 竜也 アジア・アフリカ地域研究研究科特定研究員 藤井 千晶					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語		
【授業の概要・目的】													
イスラーム世界のほぼ全域にスーフィズムは広がっている。その諸相を、思想研究・歴史研究・人類学の3つのアプローチから分析する。													
【到達目標】													
アジア・アフリカ地域のスーフィズムについての広い知識を身につけることを目標とする。同時に相異なるディシプリンを用いて対象を考察する姿勢も身につける。													
【授業計画と内容】													
<p>おおむね、次の順序で授業を行う。</p> <p>1．オリエンテーション（担当：全教員）</p> <p>2．思想研究からみるスーフィズム：スーフィズムとは何か、修行論と靈魂論、人間論と宇宙論、歴史のなかのスーフィズム、現代に生きるスーフィズム（担当：東長）</p> <p>3．歴史研究からみるスーフィズム：中央アジアにおけるスーフィー教団（タリーカ）の興隆、クブラウィーヤ派の発展と衰退、ナクシュバンディーヤ派の拡大、ナクシュバンディーヤ派とイスラーム改革主義、中国のスーフィズム（担当：中西）</p> <p>4．人類学からみるスーフィズム：東アフリカにおける民衆のイスラームとタリーカ、東アフリカのタリーカの特徴、タリーカ指導者によるイスラーム医療実践、イスラーム実践の伝統と改革（担当：藤井）</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点（50パーセント）とレポート（50パーセント）による。													
【教科書】													
使用しない													
【参考書等】													
<p>（参考書）</p> <p>東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47475-8（前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。）</p> <p>ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』（創元社）ISBN:978-4-422-21212-8（豊富な写真が特徴。東長靖監修。）</p> <p>東長靖 『イスラームとスーフィズム』（名古屋大学出版会）ISBN:978-4-8158-0721-4（専門的な論集だが、第1部は本講義に対する視座として有効。）</p> <p>高橋圭 『スーフィー教団 - 民衆イスラームの伝統と再生』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47476-5</p>													
----- アジア・アフリカ・スーフィズム論(2)へ続く -----													

アジア・アフリカ・スーフィズム論(2)

(日本語で読めるタリーカの唯一の概説書。現代エジプトに焦点を合わせる。)
赤堀雅幸編 『民衆のイスラーム - スーフィー・聖者・精霊の世界』 (山川出版社) ISBN:978-4-634-47452-9 (聖者信仰に重点を置いている。)
赤堀雅幸・東長靖・堀川徹編 『イスラームの神秘主義と聖者信仰』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034187-1 (聖者信仰、スーフィズム[タサウウフ]、タリーカ、サイド・シャリーフ論の4つのジャンルを取り上げ、概論と個別研究を組み合わせたもの。)
濱田正美 『中央アジアのイスラーム』 (山川出版社) ISBN:978-4-634-34700-7 (中央アジアにおけるイスラームおよびスーフィズムの諸相を解説)

[授業外学修(予習・復習)等]

講義内でよく理解できなかった点については、参考図書などを用いて復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53218 LJ31									
授業科目名 <英訳>		イスラーム世界論研究Ⅰ The Study of the Islamic World I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授		東長 靖 長岡 慎介	
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本講義は、イスラーム世界研究のディシプリンの基礎としてのイスラーム学について、その基礎を修得するとともに、基本問題についての表現・発信能力を身につける。各テーマに関して、基本的な問題を論じると共に、学界および研究の現状を踏まえた論議は行うが、大学院の授業であり、入門的事項は扱わない。											
【到達目標】											
イスラーム思想の基礎的な問題について、正確に知り、理解することを目標とする。イスラーム学はアラビア語を根幹として作り上げられてきた学問なので、概念・術語をアラビア語でどう表現するかはとくに重要である。											
【授業計画と内容】											
イスラーム学の主要なテーマについて、(a) 講義を行う。必要に応じて、(b) ゼミ、(c) 講評会を行う。 以下のようなテーマを扱う。文献記入法、ユダヤ教、キリスト教、クルアーン、イスラーム神学、シーア派、スーフィズム、哲学、その他。 (a)講義は、参加（出席、質問）を主とする。事前にリーディングが指定されていないときは、特に準備は必要ない。(b)ゼミは、指定されたテキストについて、全員が発表を行う。レジュメまたは発表原稿を必ず用意すること。一人あたりの持ち時間は7分程度。(c)講評会は、指定された原稿を書いたものを持ち寄り、講評を受ける。書かれた原稿を読み上げる以外に、各自の持ち時間はない。なお、言うまでもないが、他人の書いたものを丸写ししたり、どこを引用したか分からないような形で用いることは「剽窃」となる。正規のルールに基づく「引用」は可。											
【履修要件】											
授業開始以前に、東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社（世界史リブレット15）、小杉泰『イスラームとは何か その宗教・社会・文化』講談社（講談社現代新書）を必ず読了しておくこと。											
【成績評価の方法・観点】											
以下の4点を総合的に判断する。(1) 講義への参加（出席、質問、討論）。(2) ゼミでのテキスト講読、発表。(3) 講評会での「原稿」提出。(4) 文献リストの作成（イスラーム学＋自己テーマ）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- イスラーム世界論研究Ⅰ (2)へ続く -----											

イスラーム世界論研究Ⅰ (2)

【授業外学修（予習・復習）等】

前回の講義で指示された課題がある場合は、それをプリントアウトしたものを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53301 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア地域論 South Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域における出来事 / 現象を理解するには、人文・社会科学的な概念や理論を必要とする。この授業では、社会学・人類学を中心とし、それらの学説史を踏まえながら、基本的な概念と理論を論ずる。そして、それらの知識を、フィールドワークの過程や論文作成においてどのように活用するかについて議論する。											
【到達目標】											
社会学・人類学の基本的な概念と理論を理解し、それらを主体的・批判的に応用する能力をつける。 なお、本講義の内容は、後期開講する南アジア地域論IIIにつながるものであり、受講生は引き続き南アジア地域論IIIを受講することを推奨する。（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
【授業計画と内容】											
授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 なお、受講状況により変更することがある。											
1. イントロダクション 2. 個人と社会 デュルケム 『宗教生活の原初形態』 3. 個人と社会 デュルケム 『宗教生活の原初形態』 (2) 4. 個人と社会 ウェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 5. 個人と社会 マルクス 『資本論』 6. 文化と社会 文化相対主義 7. 構造機能主義 マリノフスキー 『西太平洋の遠洋航海者』 8. 構造主義 レヴィ=ストロース 『今日のトーテミズム』 9. 文化の解釈 ギアーツ 『文化の解釈学』 10. 社会と身体 フーコー 『監獄の誕生』 / 『性の歴史I知への意志』 11. 社会と身体 バトラー 『ジェンダー・トラブル』 12. 社会と身体 ブルデュー 『実践感覚』 13. アクターネットワーク理論 14. 現代的展開と諸問題 15. 現代的展開と諸問題											
【履修要件】											
特になし。											
----- 南アジア地域論 (2)へ続く -----											

南アジア地域論 (2)

[成績評価の方法・観点]

自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。
評価方法は、平常点および学期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー： 随時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53302 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア地域論 South Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
南アジアの主要な民族誌的研究を参照しながら、南アジア地域の社会と文化を具体的に論じる。そして、この地域の研究に関する主な論点と、社会学・人類学を中心とした研究枠組みを議論する。また、それらの知識を、フィールドワークの過程や論文作成においてどのように活用するかについて議論する。											
【到達目標】											
南アジアに関する民族誌的研究における主な論点とアプローチについて主体的に検討する能力をつける。 なお、本講義の内容は、後期開講する南アジア地域論IIIにつながるものであり、受講生は引き続き南アジア地域論IIIを受講することを推奨する。（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
【授業計画と内容】											
授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 なお、受講状況により変更することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．インド文明（社会）論とカースト研究 3．南アジアにおけるパーソンフード（人格 身体）、家族・親族とライフコース 4．ケガレ論と「聖」性をめぐる議論 5．植民地支配と知 文化の物象化 6．植民地期南アジアにおける社会改革と宗教復興運動 7．「女性問題」とサティール論争 8．歴史叙述とサバルタン・スタディーズ 9．コミュニナリズムと宗教間関係 10．集合的暴力と人類学的記述 11．開発と社会運動 12．市民権とデモクラシーの実践 13．現代南アジアにおける宗教とギフトエコノミー 14．ディアスポラをめぐる議論 15．出稼ぎとトランスナショナリズム 											
【履修要件】											
特になし。											
----- 南アジア地域論 (2)へ続く -----											

南アジア地域論 (2)

[成績評価の方法・観点]

自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。
評価方法は、平常点および学期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー： 随時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53305 LJ31									
授業科目名 <英訳>		インド洋世界論 Studies on the Indian Ocean World				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
文献研究は、地域研究においてフィールドワークと並んで重要な作業である。この授業では16世紀以降の南アジアに関する文献資料（ペルシア語あるいは英語）を読解することを通じ、文化交流と文化変容のあり方を考察する（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
【到達目標】											
近世近代環インド洋世界に関連する一次資料の講読を通じて、文献研究とフィールドワークをどのように結びつけるのか、各自の研究テーマに即した方法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
イギリスによるインド支配と、ロシアの中央アジア進出の中で、互いの勢力圏を定めるべく、1880年代、イギリスの地理学者たちによるアフガニスタンの地勢調査が行われた。この調査に主導的役割を果たしたThomas Holdichの回想録 The Indian Boderland: 1880-1900をテキストに、19世紀ヨーロッパ列強によるアジアの探査と開発のプロセスを考察する。											
【履修要件】											
南アジア、中央アジア、西アジアの歴史と地理について、最低限の知識を有すること											
【成績評価の方法・観点】											
出席者にはテキストの訳読と原稿作成を求め、それによって評価する。進度次第で、期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 会読用テキストについては、授業時にコピーとして配布する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
内容としてはテキスト会読と、その内容に関する解説を主眼とするため、出席者には該当箇所を十分予習してくることが求められる。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83308 LJ31									
授業科目名 <英訳>		南アジア文化論 Theories of Culture and South Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
南アジア地域研究からは、他地域の研究にも影響を与える多くの文化理論が生まれた。もちろん、他地域の研究から生まれた文化理論も、南アジア地域研究に適用されている。本セミナーでは、地域研究に資する可能性のある様々な文化理論について検討する。											
【到達目標】											
地域研究に資する可能性のある様々な文化理論を理解し、また応用する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
授業は基本的に文献購読の形式ですすめる。 授業で扱う内容については、オリエンテーションの際に履修者からの希望を聞いて決定する。これまで扱った内容は以下の通り： 宗教と世俗、市民権とデモクラシー、紛争と暴力、先住民性、主体と主体化、身体論、サバルタニティ、アクター・ネットワーク理論、感情と情動、記号論											
【シラバス例】											
1．オリエンテーション											
2～4．宗教と世俗 タラル・アサド著『宗教の系譜』『世俗の形成』， Asis, Nandy. "An Anti-secularist Manifesto"など											
5～10．身体と医療 デイヴィット・アーノルド『身体の植民地化 19世紀インドの国家医療と流行病』											
8～11．民主主義 バルタ・チャタジー『統治されるひとびとのデモクラシー』											
12～15．グローバリゼーション アルジュン・アパドゥライ『さまよえる近代』『グローバリゼーションと暴力』											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点によって評価する。											
----- 南アジア文化論 (2)へ続く -----											

南アジア文化論 (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、日/英(英語が多い)のリーディング課題が出されるので、履修者はこれを読んだうえでディスカッションのための質問や感想を用意してくること。また各回の担当者はリーディング課題の要約をレジュメにしてもってくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53310 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ヒマラーヤ地域論 Himalayan Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 非常勤講師 長岡 慶			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ヒマラーヤ地域についての主要な人類学的・民族誌的研究を参照しながら、ヒマラーヤ地域の社会・文化・地理・生態等について具体的に論じる。そして、この地域の研究に関する主な論点と、人類学を中心とした研究枠組みを議論する。また、それらの知識を、フィールドワークの過程や論文作成においてどのように活用するかについて議論する。											
【到達目標】											
ヒマラーヤに関する民族誌的研究における主な論点とアプローチについて主体的に検討する能力をつける。 (この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。)											
【授業計画と内容】											
授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 1. 地域としてのヒマラーヤ コンタクト・ゾーン？ 2. ヒマラーヤの生態人類学 3. チベット・ヒマラーヤ文明 4. ヒンドゥー世界の中のヒマラーヤ 5. ヒマラーヤにおける王権と宗教 6. ヒマラーヤの伝統医療(1) 7. ヒマラーヤの伝統医療(2) 8. ヒマラーヤにおける伝承と怪異譚 9. ヒマラーヤの地政学 10. 紛争と難民(1) 11. 紛争と難民(2) 12. 民主化運動 13. 革命運動と民族/カースト運動 14. グローバル化の中のヒマラーヤ 15. まとめ なお、受講状況により変更することがある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。 評価方法は、平常点および学期末レポート											
----- ヒマラーヤ地域論 (2)へ続く -----											

ヒマラヤ地域論 (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する文献を読んだ上で参加する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 83311 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ネパール語原典講読 I Reading in Nepali I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ネパール語はネパールの国語であり、インドのシッキム州の公用語であることに加え、インドの他の州や、ブータン、ミャンマー等にも多くの話者がいる。近年では日本に在住するネパール語話者も急増している。またネパール語文学は19世紀以降、大きく発展した。ネパール語での新聞、雑誌、単行本等の出版活動も活発である。この授業はネパール語圏において、またはネパール語を用いて研究を行う学生を対象とし、ネパール語読解能力の向上を目的とする。											
【到達目標】											
研究に必要なネパール語読解能力を身につけ、論文作成の際にネパール語資料を用いることが可能になるようにする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者の習熟度や研究関心を考慮しつつ、相談の上、決定する。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。授業は15回行う。											
【履修要件】											
ネパール語の基礎的な運用能力。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
各授業の前に指定された範囲のテキストを読み理解してくる。予習には2、3時間はかかると考えられる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83312 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ネパール語原典講読 II Reading in Nepali II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ネパール語はネパールの国語であり、インドのシッキム州の公用語であることに加え、インドの他の州や、ブータン、ミャンマー等にも多くの話者がいる。近年では日本に在住するネパール語話者も急増している。またネパール語文学は19世紀以降、大きく発展した。ネパール語での新聞、雑誌、単行本等の出版活動も活発である。この授業はネパール語圏において、またはネパール語を用いて研究を行う学生を対象とし、ネパール語読解能力の向上を目的とする。											
【到達目標】											
研究に必要なネパール語読解能力を身につけ、論文作成の際にネパール語資料を用いることが可能になるようにする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者の習熟度や研究関心を考慮しつつ、相談の上、決定する。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。授業は15回行う。											
【履修要件】											
ネパール語の基礎的な運用能力。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
各授業の前に指定された範囲のテキストを読み理解してくる。予習には2、3時間がかかると思われる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 83313 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア市民社会論 Civil Society in Asia				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 水澤 純人			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>市民社会概念の基礎と地域研究における応用の可能性を、南アジアをはじめとしたアジア諸国の事例を通じて学ぶことを目的とする。扱うテーマは、市民社会概念の歴史的系譜、グラムシのヘゲモニー論、グローバル市民社会論といった市民社会論の主要議題に加え、ムスリム諸国やインドにおける概念の適用を巡る議論を中心とする。</p> <p>受講生は課題文献を事前に精読し、自らの対象地域や研究課題への応用を念頭において授業に臨むことが期待される。</p>											
【到達目標】											
<p>次の2点の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会論の基本概念と、非西洋諸国への適用をめぐる議論の概要 2. 南アジアやムスリム諸国の政治・社会変容に関する基礎的知識 											
【授業計画と内容】											
<p>各回は次のテーマを扱う。なお、講義の進みぐあいや受講生の関心に対応し、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会論の概要と授業案内 2. 近代ヨーロッパの「市民社会」 3. マルクス主義の系譜とグラムシのヘゲモニー論 4. グローバル市民社会論 5. アジアの市民社会論（1） 市民社会概念の適用の是非をめぐる議論を解説する 6. アジアの市民社会論（2） パルタ・チャタジーの「政治社会」の議論を解説する。 7. ムガル王朝の権力構成と地域社会 8. 植民地の「市民社会」と中間層 9. 現代南アジアにおける市民社会と宗教 10. 暴力と市民社会 11. イスラームと市民社会（1） ムスリム諸国における市民社会概念の適用をめぐる議論を解説する。 12. イスラームと市民社会（2） 市民社会の主体としてのウラマーとイスラーム主義者をめぐる議論を解説する。 13. パキスタン市民社会の変容（1） 独立後から1980年代までの宗教論争の構図を解説する。 14. パキスタン市民社会の変容（2） 冒涇罪をめぐる議論を事例として市民社会における暴力の問題を解説する。 15. 総括 											
----- アジア市民社会論 (2)へ続く -----											

アジア市民社会論 (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

自らの研究関心との関りを重視する。達成度は平常点（7割）と期末レポート（3割）を組み合わせで判断する。なお、平常点は、授業への参加状況と適宜課す小レポートの評価を含む。

【教科書】

授業中に指示ないし配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

指定した文献（大半が英語）を熟読し、感想や質問を用意してくるのが望ましい。発表の担当に回った場合、内容を要約したレジюмеを作成してくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めない。メール（mizusawa@asafas.kyoto-u.ac.jp）で随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA03 53802 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などについて明らかにするとともに、グローバル地域研究の基礎的な問題群とアプローチの方法に関する演習をおこなう。													
【到達目標】													
グローバル地域研究の基礎的な問題群を理解し、様々なアプローチを主体的に検討する能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談しておこなう。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 53803 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。													
【到達目標】													
具体的な研究課題の構築とアプローチについて主体的に検討する能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談して決める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 73804 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。													
【到達目標】													
博士論文作成に向けての研究課題の明確化とアプローチの精緻化。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文の審査に合格した者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談して決める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 73805 SB31											
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				グローバル地域研究専攻全教員	
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する先端的な問題群と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究へ向けての評価や指導をおこなう。													
【到達目標】													
博士論文作成の進展と、創造的で自立的な研究能力の獲得。													
【授業計画と内容】													
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ													
【履修要件】													
博士予備論文の審査に合格した者。													
【成績評価の方法・観点】													
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
指導教員と相談して決める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA03 63806 GB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
[到達目標]											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 73807 GB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 73808 GB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 53809 FJ31									
授業科目名 <英訳>		グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[到達目標]											
フィールドワークに必要な基本的技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
[履修要件]											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 63810 FB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
【到達目標】											
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA03 73811 FB31									
授業科目名 <英訳>		グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
【到達目標】											
フィールドワークで得られた自らの知見について、英語あるいは現地語でプレゼン・議論できるようになる。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											